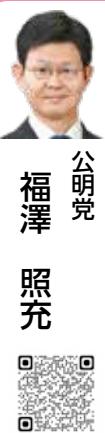


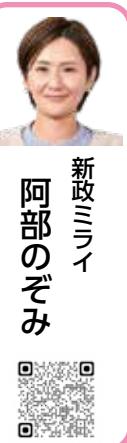
小児慢性特定疾病医療費に係る手続の簡素化



公明党
福澤 照充



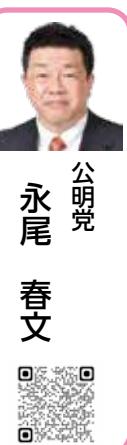
まちなかに回遊性を持たせるための仕掛け作り



新政ミライ
阿部のぞみ



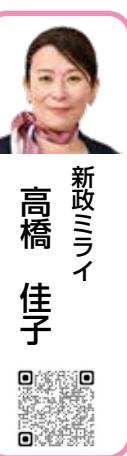
高齢者等のためのバス停環境の整備



公明党
永尾 春文



公園の在り方



新政ミライ
高橋 佳子



問 当該医療費に係る申請や更新の際は、多くの書類の提出や窓口での手續が必要であり、保護者にとって大きな負担となっている。他都市ではオンラインでの申請を行っているが、本市で導入する考えはないか。

答 本市では、小児慢性特定疾病医療費の対象となる疾患を抱える18歳未満の児童の医療費を助成しており、令和6年度は計418人に助成を行っている。国は、今年3月末にマイナポータルでのオンライン申請ができるよう標準様式を示したが、申請書類の一部は依然として紙媒体での提出となることから、これまで本市では導入していなかった。しかし、手続の負担軽減につながることや他都市での実績があることから、本市においても、速やかに導入のための作業を進め、オンライン申請ができる環境を整えていく。

まちなかに回遊性を持たせるための仕掛け作り



問 本市には「長崎」と一目でわかるフォトスポットが少ない。より多くの観光客に訪れていただくためには、例えば青森における「リボン」のオブジェのように、インパクトのあるものを市の施設を中心に配置するなど、まちなかの回遊性を高める仕掛けとする考えはないか。

答 フォトスポットの設置は訪問客の回遊性を高め、にぎわいの創出に寄与する手段の一つと考えているが、設置場所によっては、景観への調和や訪問客の滞留による影響も想定されるため、近隣住民の理解や管理上の課題等が生じる場合もある。そのため本市におけるオブジェを活用したフォトスポットの導入は、こうした課題の整理を十分に行う必要があると考えている。今後とも、ご提案も参考にしながら市内を楽しく回遊できる周遊型観光の推進につなげていきたい。

問 本市には「長崎」と一目でわかるフォトスポットが少ない。より多くの観光客に訪れていただくためには、例えば青森における「リボン」のオブジェのように、インパクトのあるものを市の施設を中心に配置するなど、まちなかの回遊性を高める仕掛けとする考え方はないか。

答 フォトスポットの設置は訪問客の回遊性を高め、にぎわいの創出に寄与する手段の一つと考えているが、設置場所によっては、景観への調和や訪問客の滞留による影響も想定されるため、近隣住民の理解や管理上の課題等が生じる場合もある。そのため本市におけるオブジェを活用したフォトスポットの導入は、こうした課題の整理を十分に行う必要があると考えている。今後とも、ご提案も参考にしながら市内を楽しく回遊できる周遊型観光の推進につなげていきたい。

問 他都市では、高齢者や障害者の外出支援のため、バス停へのベンチ等の設置を推進している。高齢化が進む本市でも、全バス停のベンチ環境調査を実施し、誰もが利用しやすいバス停の環境整備を推進すべきと考えるが、市の見解を伺いたい。

答 超高齢社会が進展する中、公共交通の利便性向上は福祉の観点からも重要なと考えている。長崎市地域公共交通計画では、主要な交通結節点の整備を進めることとし、矢上バス停等で待合環境の整備を行っている。その他のバス停は、交通事業者が原則行うものとされ、可能な限り上屋の設置等が進められているが、全バス停への設置には地

取り組むのか。

答 市では、人口減少や少子高齢化を踏まえ、2040年を見据えた公園の適正配置に取り組んでいる。令和6年度に適正配置案を整理し、今年度から地域住民との意見交換を始めている。また、現在の利用についても、老朽化した施設が多く、すぐに修繕等の対応ができる場合があり、その場合は使用禁止や撤去の方針、問い合わせ先等を明示し、利用者に分かりやすく周知したいと考えている。今後も地域の皆様に丁寧な説明を行い、様々な意見を聞きながら取組を進めていく。